

第4回 豊中市交通バリアフリー推進協議会

議事録 概要版

日 時：平成23年2月15日（火）

14:00～16:00

場 所：生活情報センターくらしかん

1. これまでの経過

これまでの経緯、国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について説明を行った。

2. 事業実施状況

交通バリアフリー整備の実績、各地区の事業実施状況、公共施設・公園・路外駐車場のバリアフリー状況、ソフト施策の取り組み状況について説明を行った。

3. 今後の取り組み

市内全域のバリアフリー化に向けた豊中市の取組みの説明を行った。

[質疑応答]

- 岡町駅地区の、伊丹豊中線の阪急宝塚線東の歩行空間の改善は平成23年度着手予定ということであるが、確実に実施頂けるのか。
- 予算は付いている。今は地権者等との協議に手間取っている。着手予定ということでは間違いはない。
- 服部・曽根駅地区の豊中吹田線の歩行空間ネットワークについて、歩行空間の確保は、商店街の歩車混合道路で難しいとは思いますが、何か情報提供があればお願いしたい。
- この区間は用地買収して拡幅する手法は理解を得られないと考えている。今のところ「着手時期未定」としているが、用地買収が伴わない方法で検討をしている段階である。
- 蛍池・大阪空港駅地区の国道176号の特定経路について、整備時期が平成23年度以降もしくは、着手時期未定となっているが、情報提供をお願いしたい。
- 予算要求は平成21年度から行っているが、本年度も予算化されなかった。整備の必要を十分認識しているので、引き続き予算獲得に向けて頑張っていく。
- 豊中駅地区の国道176号についても同様な状況と思うが、蛍池・大阪空港駅地区と同様に予算要求をお願いしたい。
- 生活空間や家から駅までの道のりのバリアフリー化が充分ではない。これからの計画の中に入れて頂きたい。
- 今後、駅周辺地区以外の地区のバリアフリー化に取り組んでいきたいと考えており、いろいろな方の意見を頂きながら、中学校区程度で区域割りして順次整備計画を作っていくきたい。
- 設備は良くなっているが、そこで働く職員やスタッフ意識の向上が必要。しっかり、心のバリアフリーを勉強してほしい。
- 来年度以降、新たな組織の中で心のバリアフリーについても体制を強化していきたい
- 千里中央周辺で駐車場の高さが制限されているところがある。そのため、車イスのまま乗れる車が駐車できないということで困っておられる人がいる。今後の課題だと思う。
- 駐車場法では、千里中央も基準は満足しているが、福祉車両の進入不可に対するご指摘・要望はこれまででも頂いているので、可能などころについては路外駐車場の届出窓口として改善要望していく。
- 路外駐車場の高さ制限と福祉車両に対応する高さについて調査した上で検討したい。

- 踏切の視覚障害者誘導標示は、非常に面白い試みであるが、これは横断歩道のエスコートゾーンの設置と同じような考え方でやられたのか、色の評価はどうされたのか。
- 踏切の視覚障害者誘導標示は、エスコートゾーンを踏み切りに設置していきこうということからスタートしたもので、視覚障害者の方に参加頂いて、色を決めさせて頂いた。
- 今後の民間建築物への対応、取り組みについて伺いたい。
- 公共施設の整備方針づくりに併せて民間施設についても、調査方法等の検討から始めていきたいと考えている。
- 大阪空港の上屋の設置について、状況をお聞きしたい。
- 上屋設置の計画は平成21年度末には実施設計は完了している。しかし、建築計画の予算が付かないため整備時期は未定となっているが、是非進めていきたい。
- 情報提供は大切。事前にインターネット等で駐車場の情報が分かるようにして頂きたい。
- 駐車場を含めた公共施設のバリアフリーデータの情報提供について検討していきたい。
- 基本構想に基づく整備によって暮らしがどうか変わったのかのチェックを、モニターを確保し、実施して欲しい。併せて、スパイラルアップへの声も拾って欲しい。
- 以前、緑地公園駅地区で調査を実施し、多くの方がよくなったという回答があった。全市的なことについては、スパイラルアップも含めて今の組織・体制の拡充を含めて、来年度以降検討していきたい。
- 民間の小規模な建築物への対応と、建築物という概念だけではなく接客とか接客を含む商店街のやさしさ対応をお願いしたい。
- アウトカムの評価を行うためのアンケート調査を実施してはどうか。また、パーソントリップ調査の項目に障害の有無等が入ったので、是非役立てて頂きたい。
- 以上の意見については、来年度以降検討する中で考えていきたい。
- 知的・精神・発達障害への対応をお願いしたい。我々の協議会もそういう方をお招きしてワークショップを開催してはどうか。
- 過年度に知的・精神・発達障害者の方のグループインタビューを実施している。今後、色々な人の意見を聞きながら実施したい。
- バリアフリーから、もう少し踏み込んでユニバーサルデザインとして対応しては。より進んだ、使いやすいまち、あるいは人間ひとり一人にとって使いやすいまちづくりの努力をしてはどうか。
- ユニバーサルデザインについては、公園や教育関係含めて使い易いシステムを作るということに努力していく。今後、住居地域のバリアフリー化の中にも入れていきたい。
- 踏切道の安全対策として、路盤をゴム製のものとし、歩行者が滑りにくいような取り組みを行っている踏切もある。また、踏切道の保安度向上は非常に重要であるとの認識のもと、踏切障害物検知装置として、新たにレーザーレーダー方式を取り入れ、面的に障害物を検知できる装置の整備を行っている。
- 色覚バリアフリーにも取り組んでおり、路線案内、時刻表、運賃表等の色のバリアフリー化を、カラーユニバーサルデザイン機構に検証頂きながら実施している。
- 進捗管理というのは非常に重要で今後のスパイラルアップに向けて今後も進めて頂きたい。知的・精神・発達障害の対応も必要かと考えている。
- 移動促進化に関する基本方針の目標について、昨年12月24日からパブリックコメントを行った。年度内には新しい基本方針、数値目標を定めたものについて告示される予定。
- 駅前商店街の活性化という切り口をスタンダードなやり方ではなくて、バリアフリーという切り口から考えていけば大阪におけるビジネスモデルができるのではないか。
- 小規模な建築物の取り扱いについて、豊中市でも内部で議論したい。また商店街の活性化について市内で連携をとって整理をしていきたい。
- 次回は来年2月頃に開催予定。

以上